

季

四年 筆順 二 禾 季
画数 8
オノ キン

成の立ち

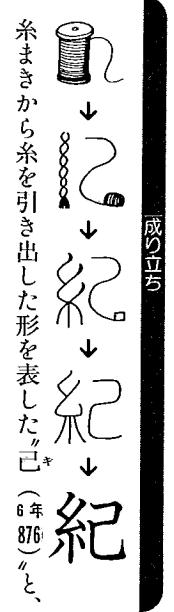
「稚（おさなこと 年⁶ 1006）」の意味の「禾」と「子」とを組み合わせて作った字です。

「幼い子」という意味の字で、兄弟の中の「末っ子」を表した字です。上の子が「孟」で、中の子が「仲」で、末っ子を「季」と言つたのです。

それで春夏秋冬それぞれの初めの月を「孟月」、中の月を「仲月」、末の月を「季月」と言うようになり、季月は春夏秋冬の節目（変わりめ）にあたるので「季節」とも言われました。今では、「季節」は、「春夏秋冬のうつり変わり」という意味に使われるようになり、また、「春夏秋冬」そのものの意味に使われ、季月の意味には使われなくなりました。また、「季」という字も今は「春夏秋冬」という「季節」の意味になつてしましました。

紀

四年
筆順
画数 9
オノ キン
キ 糸糸紀紀



成の立ち

糸糸から糸を引き出した形を表した「己」（年⁶ 876）と、「糸」という字を組み合わせて作った字です。

「己」が「おのれ」という意味に使われるようになつたため、本来の「糸ぐち」の意味を表す字として、糸を加えて「紀」としたもので、「糸ぐち」は糸の初めのところですから、「初め」という意味に使われます。例紀元。糸を使うときには糸ぐちを取ることが「もと」ですから、「物事をするときの『もと』となるもの」の意味に使われます。例綱紀、校紀、風紀。

「糸でくくる」ように、世の年代を百年ごとにくくつた「世紀」という使い方もあります。

また、「記（年² 108）」と同じ意味にも使われます。例紀行文、紀要。

△日本は、春夏秋冬の季節の変わり目がはつきりしています。国によつては、雨季と乾季しかないところもあります。四季の変化のある日本は、めぐまれた国といわなければなりません。

△季節（春・夏・秋・冬の四つの季節。「日本は四季おりおりの風物にめぐまれて、たいへん美しい国である」などというふうに、つかいます。）

△雨季（雨が長く降り続く季節。「雨期」とも書きます。）

△乾季（一年のうちで、雨が少ない季節。「乾期」とも書きます。）

△季語（俳句などで、季節を表す言葉をいいます。「さみだれを集めて早し最上川」の「さみだれ」が、季語です。）

使い方

熱語例

使い方

△今は二十世紀のおわりです。二十一世紀は、どんな世の中になつてゐるでしょう。平和で豊かな社会であると良いですね。

△わたしは紀行文を読むのが好きです。まだ行ったことのない土地のようすを知ることができます。（年でした。）

熱語例

△紀元（年数を数えるもとになる年。たとえば、西暦紀の規律をいいます。「紀元を肅正する」といえば、国の規律をひきしめることをいいます。）

△校紀（学校内の風紀。「近ごろ、校紀が乱れて、困るなどというふうに、つかいます。」）

△風紀（社会の規律。「風紀を正す必要がある」などといふうに、つかいます。）

△世紀（西暦で、紀元元年を初めとして、百年ずつを一世纪として区切つたもの）

△紀行文（旅行中の見聞を書きつづった文章）